

# 相生橋について

小泉 尋和 氏

(宮崎県宮崎土木事務所道路課主査)



宮崎土木事務所道路課小泉と申します。本日は、宮崎西環状線松橋工区で整備いたしました相生橋についてご紹介させていただきます。

まず、現在の相生橋の特徴を紹介します。写真をごらんください。橋の側面部が波を打っているような形になっています。

通常コンクリートで整備する部分に波型に加工した鋼材を使い、コンクリートとの複合構造になっております。高速道路等ではこのような構造の橋があるのですが、県で整備する橋においては、初めての採用になります。



現在の相生橋

## 宮崎土木事務所の道路整備について

次に宮崎土木のPRを含めて相生橋の位置について説明したいと思います。

宮崎市内の航空写真になります。宮崎土木では、宮崎市内及び周辺部の慢性的な交通渋滞の緩和・解消のために交通の分散化を目的とした外環状道路の整備に取り組んでおります。青色の道路が宮崎東環状道路、緑色の道路が宮崎西環状道路になっております。

こういった環状道路は、宮崎市周辺部から宮崎空港、宮崎インターチェンジなどの交通拠点へのアクセス向上、また先ほど地震の話もありましたが、大規模災害時の救援物資の運搬ルートとしてとても重要な役割を持った道路になっております。

この中で、現在事業中の区間といたしまして、青色の道路上側、赤色で書いておりますけれども、広瀬工区と緑色の道路左下の古城工区で事業を行っております。今回ご紹介する相生橋につきましては、ちょうど真ん中当たりで、赤色で書いてあります松橋工区、大淀川を渡る位置になります。



宮崎土木事務所の道路整備

松橋工区は、ソフトバンクホークスがキャンプで訪れる生目の杜の近くにあり、全体延長3.1km、4車線の道路を整備しております。主な構造物といたしましては、大きな橋が2つあります。生目の杜運動公園に向かう道路と立体で交差する延長210mの跡江高架橋と、大淀川を渡る延長412.3mの相生橋があります。

相生橋の北側につきましては、新しい相生橋が開通するまではかなりの渋滞ポイントとなっております。現在、新しい橋が架かり、交通渋滞については緩和されたと考えております。

こちらが西側から相生橋を撮っている航空写真になります。手前が新しい相生橋、奥がこれまで使っていた相生橋になります。実は、新しい相生橋は四代目になりまして、今までの変遷があります。ということで相生橋の変遷について少し説明させていただきます。



松橋工区の整備区間



相生橋の計画位置

### 相生橋の変遷

初代の相生橋は、全て木橋でした。昭和25年5月22日に着工し、約2カ月後の7月14日に完成しております。初代の相生橋ができるまでは、渡し船によって対岸に渡っていたようで、地元の方々は大喜びをし、開通式も盛大に行われたと聞いております。総工費は、当時の金額で400万円だったようです。

しかしながら、その1週間後に襲った台風により、完成からわずか1週間で初代の相生橋は流失いたしました。そのことが新聞に取り上げられています。その新聞記事には、「流失した最大の原因は、予算が無いため堤防よりも4m低い大淀川危険水位に架橋したことが挙げられ、大淀川が一度増水すれば流失することは火を見るよりも明らかである。経費の都合からとはいえ、この事実に対して地元の非難的となっている」と書かれています。

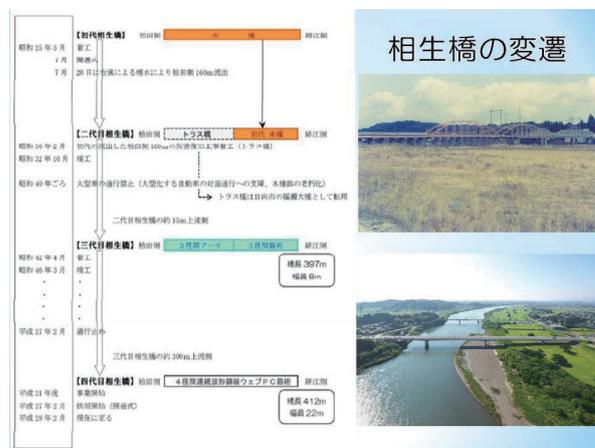
初代相生橋は、洪水が起きれば流される高さであるということが分かりながら架けていたということで、少し耳が痛い話です。

次に、二代目の相生橋は、初代の相生橋の一部が流失したものですから流失した部分を鉄の橋、トラス橋として架け替える災害復旧工事として昭和30年2月に着工しまして昭和32年10月に完成しております。総工費は、7000万円だったようです。

その後、昭和40年代になると、流失しなかった部分はそのまま木橋として利用していたものですから、木橋部分の老朽化、また、車の大型化もあり、大型車の通行に対応できないということで、二代目の上流に三代目を架けました。

三代目はこれまで皆さんがご利用されたご存知の形で、昭和42年4月に着工。昭和46年3月27日に大型車も通ることができる両側歩道付きの橋として完成しております。

その後、四代目となる現在の橋が平成27年2月10日に開通するまで、44年間にわたって利用されてきました。



相生橋の変遷

### 昭和40年代、三代目相生橋

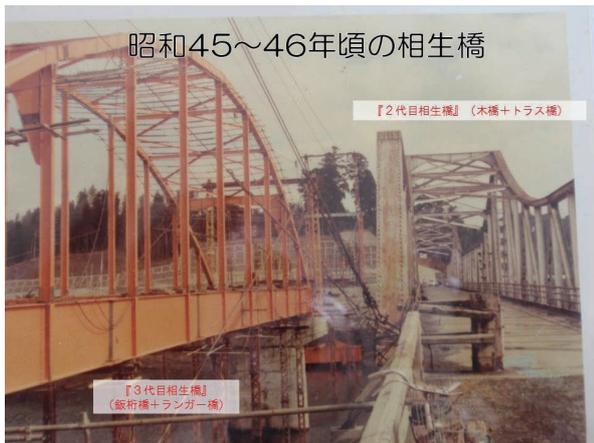
この変遷を地元の方が保管されていた貴重な写真を元に説明していきます。

昭和45年から46年頃の相生橋(写真①)です。柏田のバス停が見えます。大淀川の左岸、北側から南側を向いた写真になります。少し分かりにくいですが手前の橋奥側が初代目に残っていた木橋部分になります。水が流れている部分、川の上の部分が台風で流失してトラス橋に架け変わっています。トラス橋を木の橋を残して流された分だけ付けたものですから、変則的な橋となっております。



昭和45～46年ごろの相生橋①

これは（写真②）河川の中央部から北側を見た写真になります。ちょうど二代目の相生橋のすぐ北側に三代目の橋を架けている状況になります。



昭和45～46年ごろの相生橋②

これは（写真③）河川中央から南側を向いた写真になります。真ん中に女性の方が写っておりますが、初代の木橋部分の橋の高欄が波打って、老朽化が進んでいる状況が見て取れると思います。



昭和45～46年ごろの相生橋③

これは（写真④）南側右岸側から北側を見た写真になります。三代目の相生橋を架ける時には、二代目は、大型車が通れないという形で全面通行止めをしている状況になります。



昭和45～46年ごろの相生橋④

三代目を架けましたら、二代目は撤去されましたが、実は二代目の相生橋の部材はまだ現役で使われておりまして、日向市の耳川に架かります福瀬大橋の部材として転用されています。写真のように今も活躍しております。



福瀬大橋（耳川・日向市）

これは三代目の相生橋です。三代目は、アーチの部分特徴的な橋でありました。二代目と比べると広くはなつたのですが、歩道部分が75cm程度と狭くて、歩行者と自転車が通行する事が困難な橋でありました。また、体感された方は分かると思うのですが、信号で止まっている時には通行する車輛の影響でよく揺れる橋でありました。



3代目相生橋

### 三代目相生橋お別れ会

四代目の相生橋が開通したことに伴いまして三代目は撤去することにしたのですが、地元の方々から橋への思いを聞かせていただいていたものですから、平成27年3月22日に三代目のお別れ会をしたところです。

写真（次ページ）にあるようなイベントを行いました。ちょっとわかりにくいんですけども、左下、橋にいろいろな思いを書いてもらったんです。何と書いてあるかといいますと「毎日のように通りました。長い間ありがとう」というような文字です。改めて橋の重要性、地元方の橋の思いを感じたところでした。



3代目相生橋お別れ会

お別れ会の当日は、地元の方にしか案内をしておりませんでしたので、どうなるかわかりませんでした。300名を超える方々に来ていただきました。この写真は、みなさん同じ方向を見ていますが、何をしている写真かといいますとドローンを飛ばしまして、人文字を作りました。「ば」の線があまり上手く出来ていませんが「あいおいばし」の人文字が分かると思います。



3代目相生橋お別れ会



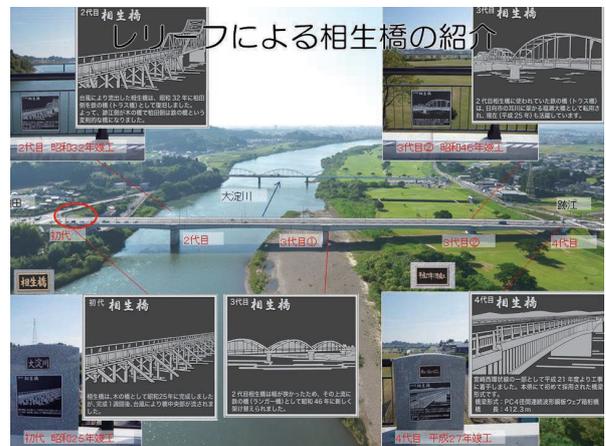
「あいおいばし」の人文字

これが、現在の三代目相生橋の状態です。撤去工事を進めておりまして、3つありましたアーチは、2つを残して、残りを全て撤去しております。今後も引き続き撤去工事を行う予定にしておりますので、周辺の方々にはご迷惑をおかけすると思いますが、よろしくお願いいたします。



3代目相生橋 H28.6 末時点

### 相生橋の歴史を未来へ



リーフによる相生橋の紹介

最後になります。これまでお話ししました相生橋の変遷を形として残すために四代目の橋の親柱やバルコニー部に、初代、二代目、三代目のリーフを取付けております。

また、左真ん中に赤丸を付けておりますけども、左岸側アバットの背後に、現在撤去を行っている三代目相生橋の親柱と橋名板を移設した展望台を整備していきたいと考えております。

現地には、二代目の相生橋の痕跡などいろいろ残しておりますので、よろしければ本日の話を思い出して相生橋周辺を散策していただき、相生橋の歴史に触れていただければ幸いですと考えております。

以上で終わります。ご清聴ありがとうございました。